

防災士

防災士研修講座のご案内



防災士になる。

防災士は、家庭や職場、地域の防災力向上の資格です。

—— 助けられる人から助ける人へ ——



Bousaishi Training Center

防災士研修センター

日本防災士機構認証研修機関

オリジナルの学習教材と各分野の著名な講師陣による授業が、防災知識の向上と今後の活動を支えます。



(感染症時期の研修には内容が異なる場合がございます。)

防災士研修センターは「防災士制度」発足以来、全国各地で1,000回以上の研修を実施し、高い評価と信頼を得ております。

充実の
授業内容

2日間の座学を受けることで防災に関して必要な一般知識と地域特性に関係する知識を習得することができます。受講生同士で話し合いながら取り組む演習では、さまざまな意見・視点を知るだけでなく、防災の志を持つ仲間と出会えます。

安心の
合格率90%以上

幅広い年齢の方が安心して試験に取り組めるように、当センターオリジナルの教材（事前学習レポート／試験対策ブック）を用意しております。オリジナル教材で学習することにより、教本全体を理解できるだけでなく、実際の試験と同じ形式での学習が可能です。

講師は、防災界を代表する方々です (50音順)



お申し込みから防災士資格取得までの流れ

防災士研修講座は「自宅学習（履修確認レポート／試験対策ブック）」と「会場研修」の2本立てで構成しています。

STEP 1

受講申込

①ご希望の研修会場をお選びください。

最新の会場状況は、ホームページまたはお電話でお問い合わせください。

②ホームページまたはFAXからお席の仮予約を行ってください。

③正式申込を行ってください。

資格取得費用のご入金手続きをもって正式申込となります。

お申し込みのコースにより入金締切日が異なります。コース一覧にてご確認ください。

STEP 2

自宅学習

①研修の3～4週間前に教材が送付されます。

「防災士教本」の他に「履修確認レポート」「試験対策ブック」が届きます。
届いた教材をもとに事前課題（履修確認レポート）への取組みと試験に向けた自宅学習をお願い致します。

②事前課題は研修初日にご提出いただきます。

別途、救急救命講習の受講が必要です。

※会場研修前に受講されることを推奨いたします。



STEP 3

会場研修
+
資格取得試験

①会場研修を受講してください。

会場ではさまざまな分野で活躍されている著名な講師陣の講義を受講いただき、災害のしくみや防災士としての役割等について学び、研修プログラムは各会場ごとに地域特性を考慮し、座学と演習で構成されております。

②防災士資格取得試験

研修2日目の最後に資格取得試験が実施されます。

試験範囲：該年度の防災士教本内

出題数：30問（三択形式）

試験時間：50分

※万が一、試験に不合格になった場合は、再試験が可能です。



STEP 4

認証登録
申請

防災士資格取得には

●防災士研修講座の受講

（履修確認レポートの提出・修了＋会場研修2日間出席）

●救急救命講習の修了

●防災士資格取得試験の合格の上、申請に必要な書類の提出が必要となります。日本防災士機構に認証登録申請をすることにより、防災士台帳に登録され、防災士としての第一歩が始まります。

※書類の提出は研修会場でも可能ですので、必要書類が事前に揃う方は、会場での提出を推奨いたします。

※認証登録の申請後、防災士資格認定証一式がお手元に届くまでに時間がかかる場合がございます。



古村 孝志
東京大学
地震研究所所長・教授

牧 紀男
京都大学
防災研究所教授

松井 一洋
広島経済大学
名誉教授

村上 仁士
徳島大学名誉教授
NPO法人大規模災害
対策研究機構副理事長

村野 淳子
別府市企画部危機管理課
防災推進専門員

室崎 益輝
兵庫県立大学防災教育センター長
神戸大学名誉教授

目黒 公郎
東京大学教授

矢野 良明
元気象庁総務部気象台次長

山岡 耕春
名古屋大学
地震火山研究センター教授
公益財団法人日本地震学会理事

山本 晴彦
山口大学大学院
創成科学研究科教授

災害大国日本において 今、防災士が必要です。

阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ、発生しうる災害に対し、
正しい知識と適切な判断力を兼ね備えた人材を育てようと、防災士制度は生まれました。
新しい社会構造に沿った住民自律型の防災体制の担い手として、事前の防災活動や災害発生時に役に立つ知識を学び、
「防災・減災の知識と意識」を身につける、それが防災士資格です。

家族を守りたい



- 子供たちにも防災の知識を伝え、家族が安全に暮らせるようにしたい
- 日中の被災も意識した女性視点の防災対策を考えたい
- タワーマンションに暮らしており、巨大地震等に備えておきたい

地域を守りたい



- 高齢者、障がい者、外国人…みんなが安全に暮らせる街づくりを目指す
- 消防団・自主防災組織での、地域防災に対する取り組みをより良いものにしたい
- 避難場所となる公園や公共施設の在り方を市民視点からも考えていきたい

職場を守りたい



- 社内の防災担当に任命されたが、何から始めればよいかかわからず悩んでいた
- 商品開発、提案、販売促進のために防災知識を身に着けたい
- 災害から会社施設を復旧に導くBCPの策定と地域貢献活動(CSR)に取り組んでいきたい

家庭で 活躍する防災士



- 保育園や学校と協力して安否確認方法の取り決めや避難訓練を始めた
- 小中学生向けの防災授業や、防災宿泊学習に取り組むようになった
- 災害時でもおいしく食べられるレシピを考えるなど、女性視点の対策を事前に始めるようになった
- 近隣住民と親睦を深め、管理組合と協力してマンション単位での避難訓練を行っている

地域で 活躍する防災士



- 避難する際に手助けが必要な人を意識した防災訓練等をハザードマップを活用し、行うようになった
- 地元消防署と協同して町内全体で定期的な防災訓練を始めるようになった
- 町内の防災士と協力して、研修講座で学んだ災害図上訓練や避難所運営の講習会を始めた
- 災害時対応マニュアルを作成、訓練を繰り返して避難方法を確認するなど、町内の防災力向上を目指している

職場で 活躍する防災士

- 社内の備蓄品を見直し、防災マニュアルを作成し、会社全体での社員の安全防災対策を始めた
- 災害を理解することで、お客様に必要なとされる防災用品の開発や提案が出来るようになった
- メディア関係者として視聴者や読者へわかりやすく伝える方法を見直す基礎が出来た
- 近隣住民と協力して被害を想定し、合同で防災訓練を始めるようになった

「助けられる人から助ける人へ」その気持ちが防災士への第一歩です

今後発生するであろう巨大地震及び、頻発する気象災害に対して何ができるのか。
災害は突然やって来ます。必ず来る「その日」に、あなたが最善を尽くせる為に、
そして、過去の災害を教訓だけに留めない為に、
防災・減災の知識と意識を身に付け、防災活動の第一歩を踏み出してみませんか。